

A13b **輻射点決定用望遠レンズシステムによるしし座流星群のフラックス測定**
鳥居研一 (理研)、小浜光洋 (理研)、柳沢俊史 (航技研)、大西浩次 (長野高専)、佐藤理江 (東工大)

私達はしし座流星群の輻射点の方向を単一の観測地から測定する方法でマクノート・アッシャの軌道理論を検証することを試みている。このために山梨県明野町の東京大学宇宙線研究所明野観測所において2001年11月17-20日に観測を行なった。

輻射点を決定するため、予報された輻射点を見込む90度離れた位置角の座標を観測した。観測機器は焦点距離180mmの望遠レンズ2台と焦点距離530mmの反射光学系2台を用い、各々に冷却CCDカメラを取り付けて20秒間の露出を繰り返した。これらのカメラの視野は1.1-7.8度角であり、観測した中心座標はそれぞれ(RA[deg], DEC[deg])=(148.47, 21.42), (154.38, 28.42), (133.43, 21.42), (154.38, 60.42) (J2000)である。輻射点を推定するには、得られた画像から視野を横切る流星の方向を決定し、これらの直線の交点を求める。

本発表では、観測結果の速報として、180mmの望遠レンズを用いて取得したデータから目視で流星を検出した結果を中心に、時刻に対する検出数を報告する予定である。

(関連講演: 大西他 (本年会)、柳沢他 (本年会)、小浜他 (本年会))